

中高年齢登山者に伝えたい  
登山マナーと技術

登山愛好者60人を擁するわが『登別山岳会』は、1970年の創立以来33年間、遭難事故を一度も起こさずに『安全に、そして楽しく』を基本に、春は残雪を踏みしめ、夏は沢のぼりやロッククライミング、秋は紅葉の中の尾根歩き、冬は山スキー、アイスクライミングと季節を問わず、登山を楽しんでいる。

当会は、市内の山、カムイヌプリ（標高745㍍）や来馬岳（1043㍍）の登山道の整備や、カムイヌプリ6合目に会が自前で建設した山小屋の管理を行っているほか、市民向けの登山教室の開催や春の市民登山会、秋には20年ぶりに民



登別山岳会主催の『カムイヌプリ山開き・市民登山会』

間バスを借り上げて、市民登山会『晩秋の風不死岳から樽前山縦走』を行った。

当会の組織を盤石なものとするために、設立当初から登別市体育協会に加盟するとともに、上部団体を室蘭山岳連盟と北海道山岳連盟とし、毎年登山技術講習会や指導員研修などを受講し、会員らの登山技術の向上に努めている。これまで14人が日本体育協会公認の山岳スポーツ指導員になり、会員の4人に1人は指導員資格を有している。

また、指導員14人のうち5人は北海道公認の山岳ガイドとして難関試験を突破し、認定を受けているが、これほど指導体制を整えている山岳団体は道内でも数少ないものと自負している。

近年、中高年齢者の登山の事故や遭難が相次いでいる。特に山岳団体に入っていない『未組織登山愛好者』の事故や遭難が目につく。私たちは、山に登るために習得した登山技術や登山マナーを会に入っていない登山愛好者に伝えようと、今年も机上の登山教室や実践登山教室、春秋の市民登山会を計画している。ぜひ参加して安全に楽しく登るための技術やマナーを学んでほしいと思う。

（富士町／河村 勝さん・登別山岳会会長）

物より心の時代へ  
『開校30周年事業』

昨年は西陵中学校開校30周年事業がありました。「お金をかけずに手作り」と呼びかけたところ、保護者はじめ地域みなさんからもたくさん協力をいただき、大成功に終わることができました。

特に校庭の整備では、学校に来ることの少ない父親たちも大勢参加。地域の方からいただいたツツジなどを植樹し、市内企業から寄贈いただいたコンクリート製擬木ベンチを設置。さらにはあずまやとベンチづくりも行われて、立派な憩いの場ができ上がりました。この憩いの場は生徒たちにより『日なたぼっこ』と名付けられ、有効に活用されています。

できあがった『物』も素晴らしいのですが、もっと素晴らしいのは、協力してくれた保護者や地域の方々の暖かい『心』です。地域とは、地面の区割りでなく、人のつながりのことだと思えます。

今回の事業を通じて生まれた学校・親・地域のネットワークが『心を大事にする登別市』につながれば素晴らしいことだと思えます。みなさんのご協力に感謝しています。

（新川町／小坂博宣さん・西陵中学校PTA会長）

2003年を振り返って③



こけし絵付け教室（4月14日）



第28回こいのぼりマラソン大会（5月5日）